

スゴ、コヨウラクツツジ、コケモモ、ヒメウスノキなど針葉樹林に特有な低木、またシラネワラビ、シノブカグマ、タカネサトメシダ、ヘビノネゴザなどのシダ植物も観察できた。

青苔荘という山小屋から池の端に出て、白駒荘までにはハクサンシャクナゲ、クロベ、サワラの低木などが、水辺を被っていた。また、水中には、全国的にも珍しいホソバウキミクリが多くみられ、感動であった。

4時近くに駐車場までもどり、解散した。

今回の例会は天候不順のため、計画したコースを歩けなかったが、多くの皆さんに御参加いただき有意義であった。

宿舎のロッジ八ヶ嶺さんには大変お世話になった。また、講師の池田登志男先生には精力的に御説明をいただき、併せて感謝申しあげ、例会の報告といたします。

<秋季例会報告>

三信国境茶臼山の植物観察会

浅野一男(東京都町田市本町田3133-5
藤の台団地2-13-202)

第157回例会は平成10年9月26日(土)～27日(日)に、三信国境にそびえる茶臼山で行われた。参加者は林一六会長、栗倉栄(静岡県豊田町)、今井健樹、大塚孝一、川上美保子、佐藤利幸、菅原敬、竹重聡、橋渡勝也、松田行雄、宮島吉彦、浅野一男の計12名であった。

第1日目：午後2時、売木村旭にある村営ささゆり荘に集合し、林会長の挨拶、佐藤幹事の日程その他の連絡、浅野による「茶臼山概念図」に基づいた観察コースと観察しうる植物の説明の後、茶臼山東北麓にある売木村アテビ島へ向かった。車を小鳥茶屋(標高1200m)において歩み出すと、まず、迎えてくれたのはスズタケ林床のブナ林。この表日本を代表するブナ林を前にして、話は中部地方を南北に切った時のブナ林の組成構造の違いにまで及んだ。ブナとイヌブナの違い、ナツツバキとリョウブの木肌の違いも実物によ

って明らかにされた。沢筋ではテバコモミジガサを見つけ、モミジガサとの区別点が披露された。アテビとこの地域で呼ばれるクロベの林内ではセリバシオガマ、アスヒカズラ、湿地ではザゼンソウが確認できた。植栽品のミズバショウも健在で、よく定着繁茂していた。秋だというのにヒメカンアオイが開花中で、それを材料に話は南信から天城にいたるヒメカンアオイの変異に及び、しばし時を忘れた。また、ヒメカンアオイの芽生え直後から3年目までの個体と同じ場所に生えていて、幼期の成長過程の説明を実物を目の当たりにしながら聞くことができたのもうれしい収穫だった。そうこうするうち4時も迫り、空は今にも泣き出しそうだし、山懐の窪地の林内はあまり見通しがきかなくなったので、急遽アテビ島を後にダンドタムラソウの自生地がある第二の目的地せせらぎの径に向かった。

せせらぎの径は売木川上流軒川の氾濫原の上に立つ半湿性林の中を縫う小径である。売木村が遊歩道として整備しているが、昔の柚道の面影をよく残している。そこではまずソーセージのような果実をつけたツチアケビの歓迎を受けた。林内を進むにつれ、ツガ、ウラジロモミ、ブナ、イヌブナ、ミズナラ、サワシバ、コハウチワカエデ、アサノハカエデ、チドリノキ、コミネカエデ、オオモミジ、ムシカリ、コバノガマズミ、フウリンウメモドキ、ソヨゴ、ニシキウツギ、ヤマアジサイ、タマアジサイ、コアジサイ、ノリウツギ、ツルシキミ、ハイイヌツゲ、ミヤマクロモジ、シロモジ、クロモジ、アブラチャン、イワガラミ、ツルアジサイ、ウワミズザクラ、コシアブラ、タンナサワフタギ、ニワトコ、ミツバツツジ、コバノミツバツツジ、アクシバ、ムラサキシキブ、ヒメカンアオイ、バイケイソウ、ヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、マンネングサ、シラネワラビ、シノブカグマ、ミヤマイタチシダ、タニギキョウ、サラシナショウマ、オクモミジハグマ、マルバノイチヤクソウと、記録が蓄積された。売木峠近く、川が90°左折したあたりでまずバイカオウレン、次いでダンドタムラソウを観察。ダンド

タムラソウは既に花期を終えていたが、林床を縦横に走る走出枝が目立った。

夕方4時半過ぎに宿舎のささゆり荘に入った。夕方は懇親会を兼ね、その後勉強会。再びブナ林が取り上げられ、多方面からの意見が交換された。また、茶臼山とその周辺地域の植物地理についても検討された。当初1時間位の予定が2時間を超える盛会だった。

第2日目：夜半に降り出した雨は雨具を用意すればなんとかなると判断して、ささゆり荘を8時半出発。根羽村茶臼山湖畔（標高1250m）に車を置き、ひたすら茶臼山の山頂（標高1415m）を目指す、お目当てはエンシュウツリフネソウ、タカクマヒキオコシ、イヌヤマハッカ。登山口でまず出迎えてくれたのが葉の陰に花を釣下げたエンシュウツリフネソウ。思いの外早い発見に一同びっくり。公衆便所近くの林縁に一群生えていたのを嚙矢に、オヒョウを交えたサワグルミ林の縁にも、フジシダを伴ったサワラ林の縁にも、あそこにもここにもと数えて行ったら頂上近くまであった。したがって個体数は予想外に多いといえる。展望台に立ったが霧で全く眺望がきかず、寒さも寒しで、早々に下山を始めた。急坂は雨に濡れて滑るが、カラクサイヌワラビの見分け方、ヒメチドメとミヤマチドメの扱い、ヒメミヤマスマレとミヤマスマレ、シナノザサとスズタケの区別などを教わりながら下る。舗装道路に出てからはハイキンボウゲの産地を訪れたり、タカクマヒキオコシ、イヌヤマハッカの区別を勉強するなどして出発点に戻り、現地茶臼山湖畔で午後1時半頃解散した。

遠路参加されて会を盛り上げて下さった皆様に厚く御礼を申し上げます。

交換雑誌（1998年4月～1999年3月）

秋吉台科学博物館報告 第33号・秋吉台科学博物館

愛媛の自然 第40巻（No.4～No.12）、第41巻（No.1～No.3）・愛媛県立博物館

愛媛県立博物館研究報告 第14号・愛媛県立博物館

大阪市立自然史博物館研究報告 52号・大阪市立自然史博物館

Nature Study 第44巻（4～12）、第45巻（No.1～3）・大阪市立自然史博物館友の会

紀州生物 第27号・和歌山県生物同好会

郷土と博物館 第43巻（2）・鳥取県立博物館

自然誌研究報告 第5巻（1）・千葉県立博物館

食虫植物研究会誌 第49巻（4）、第50巻（No.1, 2）・食虫植物研究会

鳥取県立博物館研究報告 第35号・鳥取県立博物館

徳島県立博物館研究報告 第8号・徳島県立博物館

J. Torrey Botanical Society Vol.125（4）、Vol.126（1）・Torrey Botanical Society

東京都の自然 第24号・東京都高尾自然科学博物館

長崎県生物学会 第49号・長崎県生物学会

Natural History Research Vol.5（1）・Natural History Museum and Institute, Chiba

日本花粉学会誌 第44巻（2）・日本花粉学会

はなの輪 第77号（No.1～4）・広島市植物公園植物友の会

フローラ福島 No.16・福島県植物研究会

Botany NO.48・熊本記念植物採集会

水辺環境 第20号、第21号・長野県水辺環境保全研究会

宮城の植物 第22号・宮城植物の会

山口県立博物館研究報告 第24号・山口県立博物館

野草 Nos.485, 486, 487, 488・野外植物研究会

横浜植物会年報 第27号・横浜植物会